

創立40周年

ジョルジ大使迎え記念式典

祝賀行事

フェスタ、シンポ、サローネ多彩に

北海道日伊協会は創立40周年を迎えた2014年から今年にかけて記念式典・祝賀会、「イタリアのわが町 お国自慢フェスタ」と美唄・小樽記念ツアーやはじめ、記念シンポジウム「トスカーナに学ぶ—北海道スタイルを求めて」、イタリアの幼児教育に光を当てたサローネ「レッジョ・エミリアアプローチ」など、記念行事を相次いで開催し、さらにイタリアへの理解を深めました。

ドメニコ・ジョルジ大使祝辞



晴れやかに祝賀パーティーとフェスタ

2014年9月20日札幌市中央区の札幌パークホテルで開催しました。

祝賀パーティーは午後6時、50人が長いテーブルに着席すると、「アイーダ凱旋曲」が歌い上げられて開幕（ソプラノ菅原利美さん、ピアノ伴奏渡部麻千子さん）。三部安紀子会長が挨拶に立ち（写真）、ドメニコ・ジョルジ駐日イタリア大使ご夫妻の8月来道に続くご臨席に謝辞を述べ、全国の協会との交流で励ましを受けていること、近年札幌に住むイタリア人が増え日伊協会が交流の場として親しまれていることを指摘し、交流を一層活発にしていきたいと、決意を話しました。ジョルジ大使と山田和彦・日伊協会専務理事からお祝いの言葉（大使の祝辞別掲）をいただきました。

これに先立つ第1部ではフェスタ「イタリアのわが町 お国自慢」のイベント。札幌在住のイタリア人代表が登壇。南部のアルツィーノをアレッサン德拉・リゴオリさん、ソレントをルーカ・グアダニュオーロさん、中部のオルトーナをマリアンナ・チェスパさん（ビデオ参加）、北部のモンツァをアンドレア・アルトブルンドさんがそれぞれ自慢の故郷を紹介しました。（2ページへ）

北海道とイタリアの関係で興味深い事例が続きます。

まず2015年、ミラノ万博が開催されます。北海道の食に大変注目しています。

二点目は、前回来道の際に安田侃氏からも面白い話が聞けたフォスコ・マライニの存在です。フィレンツェと京都の姉妹年提携50周年に合わせて写真展が企画されているので、北海道でもその動きがあるといいのではないでしょうか。

最後は、ジローラモ・デ・アンジェリスの存在です。恐らくヨーロッパ人として初めて北海道の地を踏んだ人物ではないかと言われています。それは1618年のことなので、4年後（2018年）に丁度400年を迎えます。

いずれも北海道とイタリアの関係を密にするチャンスだと思います。日伊協会のますますの発展を願います。（要旨）

広い会場に祝賀ムード

圧倒的だったオープニングの菅原利美さんのソプラノ独唱④

⑤40周年功労者として表彰を受けた山崎達郎さん⑥小助川克顕さん⑦



美唄・アルテと小樽・ヴェネツィア美術館



創立40周年記念撮影 主な来賓・出席者 ▽ジョルジ大使、リタ夫人 ▽日伊協会 山田和彦専務理事 ▽大阪日伊協会 兼田正廣専務理事 ▽長崎日伊協会 小幡修会長、永尾省親事務局長 ▽仙台日伊協会 三野宮勝事務局長 ▽北海道国際交流協力総合センター 高橋了副会長・専務理事 ▽札幌国際プラザ 小林進多文化交流部長 ▽日本ユーラシア協会 竹田正直会長 ▽伊藤組100年記念基金 池田俊博事務局長 ▽札幌日仏協会江口修理事長 ▽北海道EU協会 矢嶋洋一北洋銀行国際部副部長、菅原淳21世紀総研主任研究員 ▽北海道経済連合会 菅原光宏理事事務局長 ▽道農政部 小田原輝和課長、丸子剛史主幹、和泉雅也主査(順不同、敬称略)

思い込めて わが故郷自慢

在札のイタリア人の代表の皆さんのがプロジェクトの映像を駆使して、故郷の街並みや名所をガイド。急な出張で参加できなくなったマリアンナさんは映像と声で登場。ナポリを語ったルーカさん（右から2人目）は伝説の歌手カルーソーのカンツオーネ熱唱を紹介、日本人に気になる欠点があつたとしても、「それは命の塩のようなもの。料理に塩なければ味が落ちます」と結びました。



記念シンポジウム 「トスカーナに学ぶもの」

北海道日伊協会創立40周年記念シンポジウム「トスカーナに学ぶもの—北海道スタイルを求めて」を3月15日札幌市中央区のかでる2・7 10階会議室で開催しました。

過疎から世界がうらやむ新しい農業観光地帯を創り



上げたトスカーナ州について、景観ネットワーク代表の植田暁さんが「トスカーナの町並み・世界遺産オルチャ地域の復活」と題して基調講演（写真上）、北海道の現状と展望について、東川町の平田章洋定住促進課長

（同右から2人目）が「東川町の景観と移住・交流事業の取り組み」、NPO法人ワインクラスター北海道代表の阿部眞久さん（同右から3人目）が「北海道ワインの可能性」を報告し、ディスカッションしました。

参加者は会議室いっぱいの70人。札幌ふるさとくる会、江別、南幌、厚真などの農業地域づくり活動家をはじめ、高橋幹夫美唄市長、道のミラノ博担当者、

地域づくりにイタリアの風

市議会議員、ワイナリー経営者・ワイン栽培家、環境・建築デザイナー、演劇関係者、大学・高校の教授・教員、札幌在住イタリア人など様々な分野の人たちが、3人の講演と報告を踏まえて、それぞれの体験や思いを語り合い、質疑を交わしました。



「シェナの市役所に掲げてある14世紀の町と田園の絵にある風景を再現しようとしている」「地域の景観や文化にそぐわない企業進出は認めない」「東川町は移住促進政策で人口が増えている」「北海道の気候は、本格的なワイン用のブドウ栽培に適していて、世界と戦えるワイナリーが次々に育っている」「中心部にピアツツア（広場）がない町なんて、ただの道路です」

新鮮な事実と知識にふれる言葉が交錯し、地域づくりにイタリアの風を吹き込む大切さを実感する一日になりました。終了後、試飲した「北海道産ワイン」（道内で収穫されたワイン用品種のブドウで醸造）の味（写真下）は阿部さんの報告通り格別でした。

2015 年度総会の日程 7月 10 日午後 6 時から 詳細は追って連絡します。

第6回 サローネCINEMA

『人生、ここにあり』

監督 ジュリオ・マンフレドニア

精神病院が法律で廃止され、元患者たちが仕事をしてお金を稼ぐことに挑戦！ 2008 年制作（11 年日本公開）

6月 12 日(金) 午後 6 時 30 分から見どころ解説（金川道子さん）のあと上映、終了後懇談、閉会 9 時。

会場：みべ音楽院 札幌市中央区大通西 14（南向き）会費：会員 500 円、一般 1000 円

詳しくはホームページ <http://aig-hokkaido.com>。参加ご希望の方は事務局 電話 011・241・0345 へ

梅本駐伊大使との懇談会に参加

日伊協会（東京）は昨年 9 月赴任された梅本和義 駐伊大使との懇談会を 3 月 23 日（月）に港区六本木の東京俱楽部で開催、当協会から事務局担当の山田晋策・悦子夫妻が参加しました。

英（はなぶさ）前会長、弦間（げんま）現会長、山田専務理事はじめ 40 人が 2 時間 3 卓を囲む立食で懇談しました。

ドメニコ・ジョルジ駐日大使の来場はサプライズで、来場者一人ひとりとにこやかに挨拶し、私どもにも「またお会いしましたね（英語）」と握手して頂きました。

梅本大使（**上写真右**）は「日伊関係は良好です。今年はミラノ博で日本との関係も盛り上がっていますが、来年は“日伊修好通商条約締結 150 年”記念年。両国の親善関係は途切れなく続くでしょう。とくに経済面は盛上りが必要」と簡潔・明快にスピーチされました。



山田専務理事が「北海道の 40 周年行事は良かった。祝賀会の趣向、アルテピアツツア美唄と小樽北一ヴェネツィア美術館のもてなし、楽しんだバス…」などと、同席の方々に語って頂いたのは光栄でした。

英前会長に「陣内先生から植田講師を推薦いただき、40 周年シンポジウムを終えたばかり」と報告。たまたまドナルド・キーン先生と、親しくお話をできたのは、望外の幸せでした（**写真**、右は山田悦子さん）。

「永い愛読者です。北海道から参りました。昨年亡くなつた渡辺淳一さんを、どう思われますか？」には、微笑されながら「近々、石川啄木について出版します。函館、小樽、札幌、釧路…回ってきましたよ」とのこと。「啄木を調べるほど、彼の伝記小説を書く気が失せた」という渡辺さんの記述をご存知の上のお返事と思いました。

（山田晋策理事・事務局担当）

* “在イタリア日本国大使館”ホームページが梅本和義大使の着任挨拶（昨年 11 月）を発信しています。



創立 40 周年寄付（追加） 田中雅子様

交 歓 5 月 15 日、森文一郎・宮崎日伊協会専務理事から 40 年振りの北海道旅行中に連絡をいただき、交流のひと時を持ちました。来年、同協会は『日伊修好条約締結 150 周年・天正遣欧使節 伊東マンショ ローマ教皇公式謁見 430 年顕彰記念祭』をローマで開催予定とのこと。ミラノ博に続き親善の盛り上がりが期待されます。

編集後記 創立 40 周年を祝うイベントは昨年 6 月のサローネ「イタリアの幼児教育—レッジョ・エミリア・アプローチ」からスタートし 3 月の「トスカーナに学ぶもの—北海道スタイルを求めて」シンポまで。祝賀会など主要部分の報告号です▼イベントの運営で誇つていいのは、簡素を旨として会員の力でやり遂げた事。大使をお迎えした皆さん会と祝賀パーティー、シンポ、フェスタ、記念ツアーや、2 つのサローネなど、1 口 2 千円の会員寄付と普段通り会員が相応の参加費を負担して楽しむスタイルを貫き、企業などへの寄付要請は最小限で済ませました▼この間、ジョルジ大使ご夫妻の 2 度にわたるご来道は何よりの思い出でした。大使が祝辞で示唆された「北海道とフォスコ・マライニ、ジローラモ・デ・アンジェリス」のテーマは興味深く、今後に残された宿題として取り組んで行きます（彦）